

平成 30 年 度

佐 賀 大 学
入 学 者 選 拔 要 項

佐 賀 大 学

平成 30 年度佐賀大学入学者選抜要項の訂正について（医学部看護学科）

標記記載内容に一部誤りがありましたので、お詫びの上、訂正いたします。

○ 平成 30 年度佐賀大学入学者選抜要項 12 ページ

医学部看護学科アドミッション・ポリシー

「入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等」の表中に「自己推薦書」を追加

入学後の学習に必要な能力や適性		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力 3 要素との対応		「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選 抜 方 法	前期日程							
	後期日程	センター	68	○				
		面接		○	21			
		自己推薦書			○			
		調査書	11	○	○			
	推薦入試 I							
	社会人							

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウェイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■入試日程

選抜種別		学 部	募集要項 公表時期	出 願 期 間	試 験 日	合 格 者 発 表 日	入 学 手 続 期 間
一般入試	前期日程	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	11月中旬	平成30年 1 月22日(月) ～ 平成30年 1 月31日(水)	平成30年 2 月25日(日)	平成30年 3 月 7 日(水)	平成30年 3 月 9 日(金) ～ 平成30年 3 月15日(木)
		医学部			平成30年 2 月25日(日) 平成30年 2 月26日(月)		
	後期日程	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部			平成30年 3 月12日(月)	平成30年 3 月21日(水)	平成30年 3 月23日(金) ～ 平成30年 3 月27日(火)
		医学部			平成30年 3 月12日(月) 平成30年 3 月13日(火)		
特別入試	推薦入試Ⅰ	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	9月上旬 ※	平成29年11月 1 日(水) ～ 平成29年11月 8 日(水)	平成29年12月 1 日(金)	平成29年12月11日(月)	平成30年 1 月15日(月) ～ 平成30年 1 月18日(木)
		医学部看護学科		平成29年12月 2 日(土)			
	推薦入試Ⅱ	理工学部		平成30年 1 月15日(月) ～ 平成30年 1 月22日(月)	—	平成30年 2 月 7 日(水)	平成30年 2 月12日(月) ～ 平成30年 2 月14日(水)
		医学部医学科 (一般枠・佐賀県枠・ 長崎県枠)		平成29年11月 1 日(水) ～ 平成29年11月 8 日(水)			
	佐賀県 推薦入学	医学部医学科 (右記出願期間はあらかじめ行われる佐賀 県の選抜を経た上での 出願期間です。)		平成29年11月17日(金) ～ 平成29年11月22日(水)	平成29年12月 2 日(土)		
	AO入試	教育学部	7月上旬	平成29年 8 月17日(木) ～ 平成29年 8 月24日(木)	平成29年 9 月26日(火) 平成29年 9 月27日(水)	平成29年10月11日(水)	平成29年11月14日(火) ～ 平成29年11月17日(金)
		芸術地域デザイン学部			平成29年 9 月26日(火)		
	帰国子女	理工学部 農学部	9月上旬	平成29年11月 1 日(水) ～ 平成29年11月 8 日(水)	平成29年12月 1 日(金)	平成29年12月11日(月)	平成30年 1 月15日(月) ～ 平成30年 1 月18日(木)
		医学部医学科			平成30年 2 月25日(日) 平成30年 2 月26日(月)	平成30年 3 月 8 日(木)	平成30年 3 月 9 日(金) ～ 平成30年 3 月15日(木)
		社会人			医学部看護学科	平成29年12月 2 日(土)	平成29年12月11日(月)
留私学費生外国入試人	教育学部 芸術地域デザイン学部 経済学部 理工学部 農学部	11月上旬	平成30年 1 月18日(木) ～ 平成30年 1 月23日(火)	平成30年 3 月 1 日(木)	平成30年 3 月 8 日(木)	平成30年 3 月 9 日(金) ～ 平成30年 3 月15日(木)	
	医学部医学科			平成30年 2 月25日(日) 平成30年 2 月26日(月)			

※佐賀県推薦入学特別入試（佐賀県による第一次選考）の学生募集要項は、佐賀大学及び佐賀県健康福祉部医務課において配布します。

お問い合わせ先 佐賀県健康福祉部医務課

〒840-8570 佐賀市城内1-1-59 TEL 0952-25-7033 <http://www.pref.saga.lg.jp/>

目 次

I	インターネット出願について	1
II	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	2
III	募 集 人 員	20
IV	出 願 資 格	21
V	選 抜 方 法	21
	○平成30年度一般入試実施教科・科目	22
	○平成30年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について	24
	○英語外部検定試験の一般入試での利用について	25
	○平成30年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について	26
	○芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について	27
	○平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法	28
	○平成30年度特別入試（AO入試）出願資格・選抜方法	34
	○平成30年度特別入試（帰国子女，社会人）出願資格・選抜方法	36
VI	私費外国人留学生入試	40
VII	障がい等を有する志願者との事前相談について	42

I インターネット出願について

佐賀大学では、平成30年度の入試より、従来の紙願書による出願受付からパソコン、スマートフォン等を利用したインターネットによる出願受付に全て変更します。

インターネットによる出願受付の導入に伴い、検定料支払い方法が多様化し、24時間出願することが可能となり、願書を請求する必要もなくなります。

なお、7月中旬頃にはインターネット出願のデモサイトを公開します。

・出願までの手順（概略）

(1) 佐賀大学のホームページ上に掲載する募集要項において、出願資格・出願方法の確認

(2) パソコン、スマートフォン等により佐賀大学インターネット出願ページにアクセス

メールアドレスを登録する必要がありますので、お持ちでない場合は、パソコン・スマートフォン等で利用可能なメールアドレスを取得の上、登録してください。

(3) 選抜区分、志望学部、学科等の選択

(4) 個人情報等の入力

(5) 出願内容の確認

(6) 入学検定料の支払い

インターネット出願受付の導入に伴い、クレジットカード、コンビニエンスストア、ゆうちょ銀行 ATM・銀行 ATM およびネットバンキングから支払いが可能となります。

(7) 証明写真データのアップロード

証明写真は上半身脱帽正面向き無背景で、直近3か月以内に撮影した100KB～5MBのjpg又はpngデータを登録してください。

(8) 出願書類の印刷、準備

(9) 出願書類（調査書等）を佐賀大学へ送付

インターネット出願ページ上で必要事項を入力しただけでは、出願の受付は完了しません。入学検定料を支払い、出願書類（調査書等）が佐賀大学に期日までに届いた時点で、受付完了となります。

Ⅱ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

佐賀大学の求める入学者

佐賀大学は、学生と緊密にコミュニケーションできる総合大学として、人格形成、専門知識・技術の修得、そして基礎から実用開発にいたるまで、能力を最大限に伸ばすことを目標に人材育成と研究活動を展開します。

佐賀大学の教育目標は、高度情報化社会で活躍できる情報基礎と専門知識を修得させること、地域文化を理解し地域に根ざした活動を行うための素養を持たせること、国際化時代にふさわしい異文化理解とコミュニケーション能力を修得させることです。

佐賀大学は、チャレンジ精神を持ち、問題を自発的に探求・解明し、社会に貢献できることを人生目標とする学生を求めています。

教育学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

教育学部では、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的かつ連続的な視点から見据えながら、現代社会の変化に伴う様々な教育課題に応えることができる学校教員の養成を目的としています。そのための本学部のカリキュラムに適應するのに必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	●グローバル人材を育成する教員に必要な英語コミュニケーションに関する科目を学ぶため、英語に関する基本的な能力と学習力が必要です。 ●教育実習のように、実際の教育現場における学習活動を行うため、主体的な行動力や他者との基本的なコミュニケーション能力が必要です。 ●教育学の基礎的な知識・理論、各教科の教育内容やその学習指導方法、障害のある幼児・児童・生徒に対する教育、並びに幼児教育・小学校教育・中学校教育の各教育段階のあいだの円滑な接続や連携に関わる科目を学ぶために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。 ●教育のプロフェッショナルとして課題を発見し、それらを解決する能力を身につけるため、高等学校までに修得した知識・技能を活用して問題解決に繋げることができる思考力・判断力・表現力が必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

幼小連携教育コース

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

小中連携教育コース

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本コースの教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部・教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■幼小連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 特別支援教育の分野に関する学習意欲
- ⑥ 教師を目指そうとする意思

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	70	○	○	○		
		個別試験	○	15	15			
	後期日程	センター	70	○	○	○		
		個別試験	○	15		15		
	推薦入試Ⅰ	基礎学力試験	○	25				
		小論文	○			25		
		面接					25	
		推薦書					25	
		調査書	◎					

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■小中連携教育コース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を深く理解するために必要な数学あるいは国語に関する知識・技能と、これらを踏まえた思考力・判断力・表現力
- ④ 専門分野に関する文献や資料等の読解力と理解力及び自らの考えを論理的にまとめる表現力
- ⑤ 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関する高い意欲・関心と、その分野に関する特に優れた知識と技能
- ⑥ 教師を目指そうとする意思
- ⑦ 将来、佐賀県下の小学校教員としての活躍を期待できる十分な意欲と姿勢

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				3要素全て	「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	70	○	○	○			
		個別試験	○	15	15				
	後期日程	センター	70	○	○	○			
		個別試験	○	15		15			
	推薦入試Ⅰ (佐賀県枠)	基礎学力試験	○	40					
		小論文	○			20			
		面接							30
		推薦書							10
		調査書	◎						
	AO入試	適性検査	○				36		
		活動実績報告書							
		小論文	○			18			
		面接					28		
		志願理由書					18		
		調査書	○						

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

芸術地域デザイン学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とします。各コースの教育目的、カリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等、そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

芸術表現コース

現代の様々な問題に主体的かつ積極的に取り組み、芸術を自ら創造・表現し、美術・工芸や有田セラミックの専門的知識を修得するとともに、芸術を多面的・総合的に学ぶことで社会の中で自らの活動をマネジメントできる能力を身につけることにより、地域創生に貢献する人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりません、芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	独自の芸術表現とそれを支える技術、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点を持ち、芸術を多面的・総合的に捉える能力を修得するために、高等学校で習得すべき基礎的学力とともに芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能が不可欠です。

卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。
------	--

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

芸術表現コースで学ぶにあたって大きく3つの事を意識してください。1つ目は「活力」です。芸術が果たしてきた役割を学びつつ、これからの社会とどのようにつながることが出来るかを想像してください。主体的な自己が生まれ、同時に活力を生み出す事が出来ます。2つ目は「理知」です。身の回りの現実にかかる出来事に興味を持ち、気になる事に少し立ち止まりながら知識を深めてください。様々な分野の事が複雑に関係している世界の様々な兆候を見逃さない感性が育まれ、理知へと発展します。3つ目は「発信」です。自分の好きなものや気になることを誰かに積極的に伝えてください。それは活力と理知を伴って社会への発信へ変わります。これらの事を入学前から意識することで、より有意義な大学生活が送れるはずです。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

地域デザインコース

地域資源をデザインの手法を使ってコンテンツ化し、地域創生に貢献できる人材、キュレーター(学芸員)やアートコーディネーターとして国内・海外の文化芸術振興に寄与できる人材、また、まちづくり、地域創生等のコーディネーターやリーダーとして地域社会に貢献できる人材を養成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目(英語)を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部共通科目	芸術表現、地域デザインの両分野で共通的に身に付けるべき知識や技能、考え方などを授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能とともに、主体的な行動力と他者との基本的なコミュニケーション能力は不可欠です。なお、芸術表現の技能や巧拙は、共通科目を履修する上で前提とはなりませんが、芸術表現や地域デザインの両分野に対する興味・関心を有していることは必要です。
専門科目	地域デザインの理論と実践力、芸術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点から芸術を多面的・総合的に捉える能力について、授業や演習、フィールドワークを通じて修得するために、高等学校で習得すべき幅広い教科・科目の基礎的な学力とともに、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識、様々な資料や情報を読み解くための基礎的な読解力、論理的思考力、分析力、考察力に加え、自分の考えを発信する表現力、企画力、発想力等が必要です。
卒業研究	学生各自が設定した課題を最終学年の1年間をかけて掘り下げることで、論文あるいは作品として仕上げることを求めるため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や活動へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、制作活動等を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

地域デザインコースで問われるのは、芸術表現の技能・巧拙ではありません。地域デザインコースにおける4年間の教育課程を確実に修得するためには、高等学校で履修する教科・科目を広く学んでおくことが重要です。特に、国語、英語の基礎的な学力を有していることが求められます。これらの幅広い基礎的な学力をもとに、自分の考えを分かり易く、文章や絵、図表などを多角的に組み合わせることで口頭で表現できる企画力、発想力、表現力が必要です。将来、国内・海外の文化芸術振興、あるいはまちづくり、地域創生等に貢献できる人材となるためには、地域社会にとどまらない幅広い視野と強い関心を持つことも重要です。読書などを通して知識教養を深めるとともに、大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、地域や社会全般に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「AO入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■芸術表現コース

- ① 高等学校で修得すべき基礎的な教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 芸術に関する知識および自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な技能
- ③ 芸術表現を学ぶために必要な分析力、考察力、表現力および企画力を含む発想力
- ④ 芸術表現に取り組む主体性と行動力
- ⑤ 芸術表現に関する継続的な学習や自主的な芸術表現活動に向けた意欲や姿勢
- ⑥ 芸術表現の分野における優れた経験や実績

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」		
選抜方法	前期日程	センター	50					
		個別試験		50	○			
	後期日程	センター	60					
		個別試験		40	○			
	推薦入試Ⅰ	実技検査		40	○			
		面接		(30)		○	(30)	
		ポートフォリオ						
		調査書 推薦書	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)
	AO入試	適性検査		○	50			
		面接		(25)		○	(25)	
		ポートフォリオ						
		志願理由書 調査書	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)	(25)

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■地域デザインコース

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力
- ⑤ 主体的にものごとに取り組むことができる積極的な行動力
- ⑥ 継続的に地域の文化芸術活動に参画する意欲と態度
- ⑦ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜 方法	前期日程	センター	64						
		個別試験		36					
	後期日程	センター	67						
		個別試験		11	22				
	AO 入試	適性検査	○		50				
		小論文	○		30				
		面接					20		
		志願理由書					◎		
		調査書	◎				◎		
		特色加点							☆

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABC など）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

iv. ☆は、加点評価

経済学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

経済学部は、経済学・経営学・法学を柱として社会科学上の知識と教養を授け、経済や社会における課題を分析し、解決できる人材を育成することを教育の目的とします。その目的を達するためのカリキュラム編成、並びにそのために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適応するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	文化・自然、現代社会と生活だけでなく、社会科学系以外の分野に関する幅広い知識を修得するために、高等学校で履修する幅広い教科や科目の知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	大学での「学び」と現代社会との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
学部専門科目	経済学・経営学・法学の分野を総合的に学ぶとともに、所属学科の専門分野の知識、並びに社会や経済に関する課題を発見し、その課題に向けて専門知識を活用する能力を修得するために、高等学校で履修する国語、地歴、公民、数学、英語といった幅広い教科・科目の基礎的理解だけでなく、資料や情報を読み解く力、自分の考えを論理的に展開し表現する力が不可欠です。また、専門分野での情報収集・コミュニケーション能力を高めるための外国語科目を配置しているため、英文の資料を理解するための基本的な英語の学習力が必要です。さらに、少人数による演習を1年次から行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることも重要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

経済学科

経済や社会で生起している問題を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報をもとに自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経済学には、数学的な思考が必要な分野も含まれます。したがって、高等学校の教科書レベルの知識を十分に習得していることが重要です。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが求められます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とした外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際政治などの理解を深めるために必要です。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を

持った学生を歓迎します。

経営学科

企業の経営や会計を理解するためには幅広い基礎知識が必要です。様々な知識や情報に基づいて、自分なりの考えをまとめるためには、文章の読解力だけでなく、論理的に展開し記述する国語力も求められます。また、経営学や会計学には、高等学校の教科書レベルの数学の知識や考え方を応用する分野も含まれます。専門高等学校から進学する場合には、普通科の科目だけでなく、商業科目等の基本的な知識と技能を習得しておくことが望めます。さらに、国際性が求められる現代においては、英語を中心とする外国語だけでなく、歴史や地理などの幅広い知識が国際経済や国際ビジネスに対する理解を深めます。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことは、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

経済法学科

経済と社会の規範である法律について理解するためには、十分な国語力だけでなく、経済や社会、さらには政治についての知識が必要であり、そのためには、歴史や地理などの幅広い知識も重要なものとなります。また、国際性が求められる現代において、英語を中心とする外国語が重要であることは言うまでもありません。そのうえ、本学部では経済学や経営学も含めた幅広い学修が求められるため、高等学校の教科書レベルの数学の知識が必要となります。また、社会問題への関心と情報収集能力も必要です。経済や経営、法律に関連する社会現象に目を向け、関心のあるテーマについては、図書館やインターネットなどを利用して自主的に調べる能力と習慣を身につけておくことも、入学後の学修にとって有益です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入試者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■全学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力
- ④ 志望学科に関する専門分野に関心があり、主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑤ 高等学校入学以降の主体的な実績・活動

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「知識・技能」「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	88				
		個別試験	○	12			
	後期日程	センター	88				
		個別試験	○		12		

選抜 方法	推薦入試Ⅰ	小論文	○		100		
		面接				◎	
		志願理由書				◎	
		推薦書	○			◎	
		調査書	◎			◎	
		特色加点					☆

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（可否、ABC など）
iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの
iv. ☆は、加点評価

医 学部

求める学生像

医学部は、教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応える良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展並びに地域包括医療の向上に寄与することを基本理念とします。

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

医学科

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然科学と技術の分野、文化の分野及び現代社会の分野に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身につけておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成されるため、高等学校までに修得すべき幅広い教科・科目の知識と技能が不可欠です。
基礎医学科目	医学に必要な基礎的知識と技能を学ぶ授業科目（細胞生物学、発生学、解剖学、生理学、生化学、微生物学、免疫学、病理学、薬理学、遺伝医学）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科、英語に関する基礎的理解と応用力が不可欠です。
機能・系統別 PBL 科目	疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成され、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが必要です。
臨床実習	医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下、医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を修得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として実施する実習科目であるため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

医学は、生命科学を中心に自然科学のあらゆる分野が密接に関連しているとともに、人間を対象とする人文・社会科学的要素が深く関わっています。そのため、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を充分理解し、それに基づく論理的な思考ができるようにしておく必要があります。さらに、大学の学習で用いる参考書等の理解、レポートの作成、グループ討論や発表に必要な国語力、英語力およびコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。また、医学への志を確かなものにするために、医学・医療をとりまく社会に目を向け、読書やボラ

ンティア活動、医療関連に携わる先輩との交流などの取組みを通じて、自身の将来像を自ら考える積極的な姿勢が望めます。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

看護学科

高い倫理観に基づき健康についての問題を包括的にとらえ、柔軟に解決する実践能力を持った看護職者を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	自然、文化、社会に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門基礎科目	看護学に必要な基礎的な知識として人体の構造と機能及び病態・疾病と治療を学ぶ授業科目と、関連領域の基礎的理解（看護倫理、栄養学）や専門的技能を学ぶ授業科目（看護英語、キャリアデザイン、看護研究入門など）で構成されるため、高等学校で履修する数学、理科に関する基礎的理解と応用力に加え、他の教科・科目に関する幅広い知識と技能が不可欠です。
看護専門科目	看護についての専門的な知識・技能に関する総合的な内容を系統的に学修する授業科目で構成し、知識の修得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として実践演習型学習や少人数グループ学習を取り入れ実施するため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることが不可欠です。
臨地実習	看護学の知識・技術ならびに看護職者としての実践能力を修得するとともに、地域社会に要請されている医療における看護の意義を理解し、看護職者の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、チーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施するため、学んだことを実践に生かす能力や姿勢とともに、協調性やコミュニケーションを通じてチーム医療の一員として学習できる態度、姿勢および行動力を持っていることが必要です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

看護学は、健康な人から病をもつ人まで様々な健康レベルの人々を対象とした実践科学です。人間は身体的・精神的・社会的存在で、環境と相互作用しながら健康を維持しています。健康には、自然・人文・社会科学の要素が深く関わっているため、看護学の学習のためには、高等学校で履修すべき科目を偏ることなく、幅広く習得しておくことが必要です。看護実践の基礎となる、看護の知識と専門的技術の修得には、特に、生物・化学・物理・数学の基本的事項を理解し、論理的な思考ができるようにしておく必要があります。また、看護は人間関係を通して実施されるため、文章による意思の疎通に必要な国語力や自己・他者間の理解を共有するためのコミュニケーション能力を獲得していることも重要です。大学での学習は、看護の生涯学習の基盤となるため、国内外の社会に目を向け、読書やボランティア活動などの自己啓発の取組みを通じて、自ら考える積極的な姿勢が望めます。

入学選抜の基本方針

各学部教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「帰国子女」、「社会人」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■医学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ⑤ 医学への志を持ち、医学・医療により社会に貢献しようという意欲と態度
- ⑥ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑦ 医学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑧ 佐賀県、長崎県の医療活動に貢献したいという強い意思

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」			
選 抜 方 法	前期日程	センター	61	○	○					
		個別試験	23	○	○					
		面接				○	6			
		調査書	10	○	○		○			
	後期日程	センター	69	○	○					
		面接				○	20			
		自己推薦書					○			
		調査書	11	○	○		○			
	推薦入試Ⅱ	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	10			
		調査書・推薦書	22	○	○		○			
		自己推薦書					○			
		志願理由書 (佐賀県枠・ 長崎県枠のみ)								○
	佐賀県推薦	センター	58	○	○					
		小論文	○		○	10				
		面接				○	11			
		推薦書					○			
		調査書	21	○	○		○			
	帰国子女	学力検査	67	○	○					
		面接				○	33			
		提出書類	○	○	○		○			

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

■看護学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、専門分野を理解するために必要な基本的な思考力・判断力・表現力
- ② 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ③ 資料等の理解力、科学的かつ論理的な思考力及び医療人としての人間性
- ④ 人間に関心を持ち、人々の健康と福祉に貢献しようという意欲と態度
- ⑤ 生命や医療に対する倫理観、コミュニケーション能力、チーム医療の一員となる上で不可欠な協調性
- ⑥ 看護学・医療について学ぼうとする意欲や物事に積極的に取り組む態度
- ⑦ 看護職に夢を持ち、理想とする看護職者を目指す意思

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」			「主体性等」			
選抜方法	前期日程	センター	71	○					
		小論文	11		○				
		面接			○	7			
		調査書	11	○		○			
	後期日程	センター	68	○					
		面接			○	21			
		調査書	11	○		○			
	推薦入試Ⅰ	小論文	○	○	40				
		面接				30			
		調査書・推薦書	30			○			
		自己推薦書				○			
	社会人	小論文	○	○	77				
		面接			○	23			

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）

ii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

理工学部

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の教育目的、カリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等、そして入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目	数学の思考力、表現力および論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても予習や復習などの時間外学習を課すことで知識の定着を図りますので日頃の学習習慣が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、数学における諸問題を正確に理解し解決する力を修得することになりますので、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につける必要があります。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを

書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

物理科学科

物理科学科では、広範な自然現象を理解する試みを通して、現代の科学技術を支える学力と、柔軟性に富んだ豊かな発想力を培い、広い分野で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する科目を履修するために、専門に関する教科だけに留まらない幅広い関心と基本的な考え方を身に付けておくとともに、英語科目を履修するための基本的な英語の学力が必要です。 また、現代社会の諸問題を見つめ、対応する力を修得するために、現代的な課題や事象に対して、学生同士のグループ学習や、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを進んで行う行動力や学習態度を求めます。
専門科目	物理学の基本的な考え方および論理的厳密性を修得するために、高等学校で履修する物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、講義形式であっても時間外学習や課題を課すとともに、小テストや中間試験を行うことで知識の定着を図りますので、日頃の学習習慣が必要です。実験・演習等の授業では、グループ学習や実験に関わる作業が中心となるため、主体的な行動力や、他の学生とのコミュニケーション能力が求められます。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、物理学に関わる諸問題を正確に理解し対処する力を修得するため、3年次までの教育課程が十分に学習できていることが必要です。卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論や実験に参加する態度、周囲とのコミュニケーションを通じて研究活動を活性化する姿勢が望まれます。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

物理学における基本的な概念や法則を理解するためには、高等学校で履修する物理と数学の基本的事項の理解および計算能力だけでなく、それらの知識に基づく論理的な思考力が求められます。また、実験や観測を通して法則を見出すための洞察力も必要です。さらに、専門的な知識や考え方を修得するためには、海外の文献にも目を通すことが必要であり、高等学校の教科書レベルの英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

知能情報システム学科

知能情報システム学科では、情報科学及び情報工学の学問領域における専門知識・能力及び広い視野を持ち、知識基盤社会を担う人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等で学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目	知能情報工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、情報技術分野のプロフェッショナルとして問題を発見・解決する能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文の執筆を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。また、文献などから情報を正確に読み取ったり、文章で事実を正確に記述する国語力も必要になります。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

知能情報システム学科では、IT の理論の専門基礎を重点的に教育します。そのため、高等学校で数学及び理科の基礎事項を理解し、教科書レベルの問題を解く能力を求めます。文書作成、口頭発表の能力を育成しますので、国語の学力が重要です。専門文献を読むため及び国際社会で活躍するための語学教育に必要な英語の学力も要求します。また、幅広い文化、自然、社会の素養を修得するために広範な基礎学力も必要です。本学科では、実験科目や卒業研究を通してグループの中での協調性、自主的学習能力、情報収集能力などを育成します。したがって、良識的に行動し、高い学習意欲を持ち、知識の獲得に積極的な学生の入学を望みます。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

機能物質化学科

機能物質化学科では、化学を通して継続的に社会に貢献することのできる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習能力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目 (物質化学コース)	基礎から応用にわたる化学の幅広い知識を体系的に身に付けていくために、多岐にわたる専門科目の授業が、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置されています。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。 また、化学を通して社会に役立つ能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (機能材料化学コース)	基礎から応用にわたる化学の幅広い知識と実践力を身に付けていくために、化学技術者に必要な専門科目の授業が、無機化学、有機化学、物理化学、分析化学、化学工学の5つの分野で構成・配置されています。したがって、高等学校で履修する化学の基礎的理解と応用力が不可欠です。 また、化学技術者として課題を発見し解決する能力、および課題解決につながる協調性と指導力を修得するために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して自ら仕事を計画・遂行していく能力を身に付けるために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。 なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

化学は、物質の構造や機能の関係を明らかにするために、様々な物質を詳細に調べ、新しい物質の合成や分解を行います。そのため、既存物質の特性を正確に把握し、必要な仮説と検証実験、そして得られた結果の論理的説明が求められます。このように化学を専門的に学ぶためには、高等学校で学習する化学の基本事項を十分に理解していることが必要です。また、実験等で取得したデータ解析には、計算能力や数学的思考力が求められ、物質の物理的性質や生物学的性質を理解するためには物理学や生物学の知識が必要となります。したがって、高等学校で学習する数学、物理および生物の基礎学力は、化学を専門的に理解するためには欠かせないものです。さらに、新しい知識や技術を身につけるためには、外国の文献等にも目を通す必要があり、基礎的な英文読解力が求められます。一方、専門科目に限らず大学の講義や演習では、情報の収集、文献読解およびレポートの作成など、情報収集力や文書作成能力が求められるため、高等学校で学ぶ国語や社会の基本的な知識や考え方を修得しておくことが必要です。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

機械システム工学科

機械システム工学科では、機械工学及びその関連の領域において、専門的な基礎知識及びその応用力並びにものづくりの素養を身に付けた技術者となる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目	機械工学に関する基礎的知識、技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。 また、企業などが生産現場で抱える課題や、より広範囲なものづくりに関する課題を発見・探求・解決する力を身につけるために、演習や実験などを通して、チーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、指導教員の下、総合的な学習を通して、実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究では、個別に提示される研究課題に対し、専門性の高い研究活動に取り組むので、議論へ積極的に参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

機械工学は、すべてのものづくりに欠かせない技術であり、それを修得するためには、高等学校で学ぶ数学と物理および化学の基本的事項を理解し、教科書レベルの基本問題を解く能力を十分身につけておく必要があります。また、講義を理解して、レポートを作成したり、自分が調べたものを発表するためには、読解力や記述力を中心とする国語能力だけでなく、現代社会の仕組みや歴史、文化など高等学校の社会科で学ぶ一般的な知識も求められます。さらに、英文の読解や作成、外国人とのコミュニケーションなど様々な分野で将来的に活躍するためには、高等学校で学ぶ基礎的な英語力は欠かせないものです。そして、ものづくりを通じた社会への貢献に興味と熱意を持つことを期待します。

上記のことに加え、ものづくりに関連した技能の習得や、国内外で開催される科学技術コンテスト（数学オリンピック、物理オリンピックなど）における活動、外国語（英語）の資格・検定試験を活用した語学力アップへの取り組みといった自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらし、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

電気電子工学科

電気電子工学科では、電気工学及び電子工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目	電気電子工学の分野に対する興味・関心を有していることが必要です。また、電気電子工学分野の基礎的な知識と技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。また、電気電子実験機器の操作、PDCA サイクルの実践的な能力を修得するために演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果をもとに、原則として学生それぞれが個別の研究テーマを担当し、研究計画の立案から実施・発表会での結果報告・卒業論文の執筆を一貫して行うことで、専門学修の総仕上げとします。そのため、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。また、文献などから情報を正確に読み取ったり、文章で事実を正確に記述する国語力も必要になります。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

電気電子工学科に入学した学生は、日本の誇る大企業や九州の有力企業をはじめとする社会の第一線で活躍できるよう、電気電子工学に関連した様々な理数系専門科目を学びます。技術文書を正確に書く練習や、技術英語の修得も行います。そして、それらを駆使して社会に役立つものを創り出す研究活動も行います。そのため、入学時点で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力をしっかりと身につけていることが必要です。国語、英語、社会の基本的な知識を学んでいることも必要です。高校等での学習においては、教科書の範囲で解ける標準的な問題を、確実に解けるようにすることを望みます。社会で活躍できることを目指して育成しますので、もの創りへの関心や、エネルギーや環境問題等への興味が必要であり、男女を問わず意欲ある人の入学を望みます。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

都市工学科

都市工学科では、都市工学の領域における専門的知識・能力を持ち、社会で活躍できる人材を育成します。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	一般的教養として、自然、文化、社会に関する幅広い科目を履修するために、専門に関する特定の教科や科目だけに留まらない幅広い基本的な知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。 また、現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心ばかりでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門科目 (都市環境基盤コース)	都市環境基盤に関する基礎的知識、分析力、考察力、安全・安心な社会基盤整備や都市・地域の環境をより一層豊かにする高度な知識・技能を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。 また、地域条件、歴史や文化を踏まえた社会基盤の多面的な役割を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた社会基盤のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。 さらに、都市環境基盤分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
専門科目 (建築・都市デザインコース)	建築・都市デザインに関する基礎的知識、分析力、考察力、身の回りの居住環境・建築環境の快適性を最適に保つための知識・技能、現代社会に対応した建築・都市空間を計画・設計する能力を修得するために、高等学校で履修する数学と物理の基礎的理解と応用力が不可欠です。 また、歴史や文化、人々の生活と関わる建築・都市空間の多様な価値を理解する力、都市・地域の持続的発展に向けた建築・都市空間のあり方を提示する力を身に付ける必要がありますので、高等学校で履修する国語、地理、歴史といった幅広い教科や科目の基礎的理解が必要です。 さらに、建築・都市デザイン分野のプロフェッショナルとして課題発見能力および課題解決能力を身に付けるために、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	3年次までの学習成果を踏まえ、各コースの指導教員の下、総合的な学習を通して実社会における諸問題の発見・解決能力を習得するために、3年次までの教育課程で十分に学習できていることが前提となります。 なお、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

都市における交通体系や水・エネルギー供給のライフライン、建築物等のさまざまな社会基盤・施設の整備と安全・安心の確保は非常に重要ですが、同時に自然環境や歴史、風土等との調和も必要です。都市工学科では、都市や地域に関する理解、形態や空間を扱うデザインも学問対象としていますので、様々な社会的現象および文化や歴史についても関心を持つことが求められます。したがって、都市工学科の志願者には、高校で学ぶ数学・物理など自然科学の基礎力、論理的思考を支える国語力、英語で書かれた文献の理解のための英語力、さらに地域の文化や歴史に目を向け得るための社会的な基礎知識などが求められます。

以上に加え、自らの学習活動や取り組み等を通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部の教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■理工学部

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学、理科に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的かつ科学的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 志望学科の専門科目と特に関係の深い教科・科目に関する十分な知識・技能と、これらを踏まえた高度な思考力・判断力・表現力
- ⑤ 志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑥ 志望学科の専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑦ 本学部で学びたいという強い意欲

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」					「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	60	○	○	○	○		
		個別試験	○	33	7	○	○		
	後期日程	センター	60	○	○	○	○		
		個別試験	○	○		40	○		
	推薦入試Ⅰ	小論文	○	○	○		◎		
		面接	○	○	○		◎	◎	
		推薦書	○					○	○
		調査書	○					○	○
	推薦入試Ⅱ	センター	100	○	○	○	○		
		推薦書	○					◎	○
		調査書	○					○	○
	帰国子女	小論文	○	○	○		◎		
		面接		○	○		◎	◎	
		提出書類	◎						

i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）。

ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABC など）

iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

求める学生像

【教育目的と入学後の学習に必要な能力や適性等】

農学部は、農学及び関連する学問領域において、多様な社会的要請にこたえうる幅広い素養と実行力を身に付けた人材を育成することを目的とします。そのためのカリキュラム編成と本カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等および入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組みは以下の通りです。

カリキュラム編成	カリキュラムに適應するために必要な入学時の能力や適性等
教養教育科目	文化・自然、現代社会と生活に関する基礎的な知識を修得するために、専門に関する特定の教科や科目に留まらない幅広い知識や考え方を身に付けておくとともに、外国語科目（英語）を履修するための基本的な英語の学習力が必要です。
インターフェース科目	現代社会の諸問題との接続を意識した問題発見能力や解決能力を修得するために、現代的な課題や事象に対する興味・関心だけでなく、学生同士のグループ学習やプレゼンテーションなどを含むアクティブ・ラーニングを積極的に行っていくための主体的な行動力や学習態度が必要です。
専門教育科目	農学部分野の基礎的な知識・技術とともに、課題発見と解決能力を修得するために、高等学校で履修する理科、数学を中心とした基礎的理解と応用力に加え、資料や情報を読み解くための国語力と英語力、その他幅広い教科・科目に関する知識を有することが不可欠です。また、演習や実験を通してチーム作業や問題解決型学習を行いますので、主体的な行動力や他の学生とのコミュニケーション能力が必要です。
卒業研究	高学年次での各研究室における卒業研究では、専門的な研究環境で専門知識と先端技術を修得することになります。そのため、低学年次における教育課程で十分に学習できていることが前提となります。また、卒業研究は少人数形式で行うため、積極的に議論へ参加する態度や、周囲とのコミュニケーションを通じて、学習・研究活動を活性化できるような能力や姿勢を持っていることは有効です。

〈入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み〉

応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の特性を理解し生物の改良や活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。

生物に対する興味があり、生物の機能また生物が生育する環境について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人、留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が必要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

生物環境科学科

生物環境科学科では、3つのコースにおいて次のような人材を育成します。生物環境保全学コースでは、地球上の環境や生態系を深く理解し、これらの保全、再生及び活用を通して、社会に貢献できる人材を育成します。資源循環生産学コースでは、生物科学及び生産情報科学の理論と技術を学び、環境に配慮した食糧生産と環境問題の解決に貢献できる人材を育成します。地域社会開発学コースでは、フィールドワークに基づく教育研究を通して、日本を含むアジア・太平洋諸地域における、持続可能な循環型地域社会の構築に貢献できる人材を育成します。

人間を含む生物やそれを取り巻く環境及び人間社会に対する興味があり、これらを総合的に学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学の課題にはグローバルな問題が多くあり、それを解決する糸口を得るため、実験や調査活動を自主的にかつ継続的に行なうことが重要です。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が望まれます。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

生命機能科学科

生命機能科学科では、科学的思考力を備え、生命科学技術の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる人材を育成します。

生命現象に対する科学的興味があり、微生物から高等生物までの生命体を持つ機能について学習するための基礎学力として、高等学校で履修する理科や数学の基本事項を理解していることが必要です。また、講義を理解し、レポート等を作成・発表するためには、様々な文献を読み、文書を作成するという国語力が必要になるだけでなく、社会の仕組みや地理・歴史、文化といった高等学校の教科書レベルの一般常識も求められます。さらに、専門的な知識や技術を得るためには、海外の文献にも目を通す必要があるため、高等学校の教科書レベルの英語の読解力が不可欠です。農学は、実験や調査活動を自主的にかつ継続的にこなすことが重要です。また、その課題はグローバルな問題が多くあります。従って、自然科学全般に対する知識欲と、勉強を続けるための目的意識を持つこと、さらに、教員、先輩、友人また留学生等とコミュニケーションがとれる積極性が重要です。

上記のことに加え、自らの学習活動や取り組みなどを通して、周囲の学生にも良い刺激をもたらすことで、本学科の教育・研究活動を活性化できる「主体的に学ぶ態度」を持った学生を歓迎します。

入学者選抜の基本方針

各学部・教育目標・方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とし、以下のような多様な選抜方法と多面的・総合的な評価方法により入学者を選考します。

選抜方法	目的と概要
一般入試	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の入試区分により、入学者を選考します。
特別入試	一般入試では評価が難しい多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象とし、「推薦入試」、「帰国子女」の入試区分により、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入試者を選考します。
3年次編入学試験	短期大学、専修学校及び高等学校の専攻科の課程の卒業生で、さらに高度な専門教育・研究を希望する入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

入試で評価する入学後の学習に必要な能力や適性等

■全学科

- ① 高等学校で修得すべき幅広い教科・科目の知識・技能と、これらを踏まえた基本的な思考力・判断力
- ② 専門分野を理解するために必要な数学に関する知識・技能と、これらを踏まえた数理的な思考力・判断力・表現力
- ③ 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる英語の読解力と表現力
- ④ 志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識・技能
- ⑤ 志望学科の専門分野に対する強い興味・関心及び主体的に学び続けようとする意欲と態度
- ⑥ 本学部で学びたいという強い意欲

入学後の学習に必要な能力や適性			①	②	③	④	⑤	⑥
学力3要素との対応			「知識・技能」「思考力等」				「主体性等」	
選抜方法	前期日程	センター	60	○	○	○		
		個別試験	○	20	20	○		
	後期日程	センター	73	○	○	○		
		個別試験	○	27		○		
	推薦入試Ⅰ	小論文	○	○	○	40		
		面接	○	○	○	40		
		志望理由書					(20)	○
		推薦書	(20)					○
		調査書	(20)					
	帰国子女	小論文	○	○	○	40		
		面接		○	○	40		
		提出書類	(20)				(20)	○

- i. 数値は、各入試区分で評価する重み（総合点に対する各配点のウエイト [%]）
- ii. ◎は、点数化はしないが、段階評価するもの（合否、ABCなど）
- iii. ○は、間接的に評価したり、内容を確認するもの

Ⅲ 募集人員

学部、学科・課程等名			募集人員等 入学 定員	募 集 人 員							備 考		
				一般入試		特 別 入 試							
				前期 日程	後期 日程	推薦入試Ⅰ (大学入試セ ンター試験 を課さない)	推薦入試Ⅱ (大学入試 センター試 験を課す)	ＡＯ 入試	佐 賀 県 推薦入学	帰国 子女			社会人
教育学部	学校教育課程	幼小連携教育コース	25	15	5	－	－	－	－	－	－	○初等教育主免専攻の推薦入試における募集人員5人は、佐賀県枠で募集します。 ○幼小連携教育コース（推薦入試は除きます。）は、入学後それぞれの専攻に分かれます。	
		特別支援教育専攻				5							
	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	70	43	12	5		10					
		中等教育主免専攻	25	12	5	－		8					
	小 計		120	70	22	10		18					
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	55	30	10	－	－	5	－	－	－	○芸術表現コース（一般入試）及び地域デザインコースは、入学して1年後にそれぞれの分野に分かれます。 ○芸術表現コース（特別入試）は、入学して1年後に出願時に選択した分野に分かれます。	
		有田セラミック分野				5		5					
	地域デザインコース	地域コンテンツデザイン分野	55	25	15	－		15					
		キュレーション分野											
	小 計		110	55	25	5		25					
経済学部	経済学科		110	70	20	20	－	－	－	－	－	○一般入試は、3学科の中から順位を付けて第3志望まで志望できます。	
	経営学科		80	30	20	30							
	経済法学科		70	35	25	10							
	小 計		260	135	65	60							
医学部	医学科		*106	50	10	－	**44	－	2	若干人	－	○医学科の推薦入試における募集人員44人は、一般枠20人、佐賀県枠23人、長崎県枠1人としします。 ○看護学科の推薦入試における募集人員20人には、専門系の科及び総合学科からの募集を含みます。	
	看護学科		60	35	5	20	－		－	－	若干人		
	小 計		166	85	15	20	44		2				
理工学部	数理科学科		30	24	6	－	－	－	－	各学科 若干人	－	○一般入試（前期日程）は、7学科の中から順位を付けて第2志望まで志望できます。 ○機能物質化学科は、入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。 ○都市工学科は、入学して1年半後にそれぞれのコースに分かれます。	
	物理科学科		40	30	8	－	2						
	知能情報システム学科		60	45	10	2	3						
	機能物質化学科	物質化学コース	90	62	16	2	10						
		機能材料化学コース											
	機械システム工学科		90	58	17	5	10						
	電気電子工学科		90	60	22	4	4						
	都市工学科	都市環境基盤コース	90	61	15	4	10						
		建築・都市デザインコース											
小 計		490	340	94	17	39							
農学部	応用生物科学科		45	25	10	10	－	－	－	各学科 若干人	－	○一般入試は、3学科の中から順位を付けて第2志望まで志望できます。 ○生物環境科学科は、入学して1年後にそれぞれのコースに分かれます。	
	生物環境科学科	生物環境保全学コース	60	30	15	15							
		資源循環生産学コース											
		地域社会開発学コース											
	生命機能科学科		40	30	5	5							
小 計		145	85	30	30								
合 計			1,291	770	251	142	83	43	2				

（備考）推薦入試Ⅰ、佐賀県推薦入学特別入試及び教育学部のAO入試の合格者（入学手続者）が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の前期日程の合格者で補充します。また、推薦入試Ⅱの医学部医学科については、一般入試の後期日程の合格者で補充します。AO入試の芸術地域デザイン学部及び推薦入試Ⅱの理工学部については、一般入試の合格者で補充します。

後期日程の募集人員には、帰国子女特別入試及び社会人特別入試の募集人員（若干人）を含みます。

* 医学部医学科の入学定員106人には「緊急医師確保対策」に基づく暫定措置（臨時定員増2人）の延長が認可された場合の人数を含むものであり、現時点において確定した人数ではありません。

** 医学科の推薦入試Ⅱ佐賀県枠には「佐賀県医師修学資金」が貸与される5人が含まれ、長崎県枠には「長崎県医学修学資金」が貸与されます。なお、詳細は推薦入試募集要項に掲載します。

IV 出願資格

本学へ出願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

1 一般入試

- ① 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」といいます。）を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者
- ③ 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者

（注）同条第7号により出願を希望する者は、事前に入学資格認定の審査を行います。

※申請期間及び申請書類の送付先等

本学の個別の入学資格審査により、入学資格の認定を受けようとする者は、平成29年8月25日(金)までに申請するものとします。

ただし、他大学において入学資格の認定を受け、平成30年度大学入試センター試験に出願し、受理された者については、平成30年1月17日(水)までに申請するものとします。

申請書類を郵送する場合は、必ず書留郵便とし封筒表面に「大学入学資格認定書交付申請」と朱書し、本学入試課に送付してください。

〈参考〉学校教育法施行規則第150条第7号

大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

※上記出願資格以外に、平成30年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（22、23ページ参照）のうち一つでも受験しなかった者は、失格となりますので注意してください。

2 特別入試及び私費外国人留学生入試

28ページから41ページを参照してください。

V 選抜方法

入学者の選抜は、一般入試及び特別入試並びに私費外国人留学生入試により行います。

本学では、大学入試センター試験の過年度成績は利用しません。

1 一般入試

- (1) 大学入試センター試験及び個別学力検査等の成績、調査書の内容を総合的に判断し、合格者を決定します。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目及び個別学力検査等の教科・科目等は、22、23ページを参照してください。

医学部医学科においては、入学志願者が、募集人員を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合（前期日程は募集人員の約5倍、後期日程は約10倍）に、2段階選抜を実施します。

- (2) 本学が課す大学入試センター試験の受験を要する教科・科目と個別学力検査等の教科・科目等のうち一つでも受験しなかった者は、失格とします。
- (3) 採点・評価基準、合否判定基準は、募集要項に掲載します。
- (4) 入学手続締切後、入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格者を決定し補充することとしますが、欠員補充第2次募集を行うこともあります。

2 特別入試及び私費外国人留学生入試

28ページから41ページを参照してください。

平成30年度一般入試実施教科・科目

日程	学部, 学科等		募集人員	大学入試センター試験																						2 段階 選抜	備考												
				外国語					国語	数学				地理歴史・公民							理科							教科 科目数											
				英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	科目数	国語	数学Ⅰ	数学ⅠA	数学Ⅱ	数学ⅡB	簿情	科目数	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治経済	倫理・政経	科目数	基礎	専門	科目数	満点								
				筆記	リスニング																						物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学					
前期	学校教育学部	幼小連携教育コース		15	○	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1 2	○	○	○	○	○	○	1	5又は 6・7 900	地歴・公民・理から3			
		小中連携教育コース	初等教育主免許専攻	地歴・公民2科目型	43	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	○	○	○	○	1	5又は 6・7 900	地歴・公民2科目型 及び理科2科目型は 出願時に選択		
				理科2科目型	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	2	5・7 900			
			中等教育主免許専攻	地歴・公民2科目型	12	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1		5又は 6・7 900	
				理科2科目型	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	2		5・7 900	
		芸術地域デザイン学科	3科目型	30	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1		3・3 500	地歴・公民・数・理から1
			4科目型	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	◇	◇	0 2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0 1	0 1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0 2		3又は 4・4 600	地歴・公民・数・理から2 ただし数・理から1は必須
		地域デザインコース		25	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1		5・5 700	
		経済学部	経済学科	70	○	○	○	○	○	1	◎	○	○	○	○	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1									4・5	約 5 倍			
			経営学科	30	○	○	○	○	○		200	200					100								1	1												700	
			経済法学科	35	○	○	○	○	○		200	200					100								1	1												700	
			医学部	医学科	50	◎	◎				1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				◎	◎						2	5・7 630
				看護学科	35	◎	◎				1	◎	◎	◎	◎	◎	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○				2	5・6 650
			理工学部	数理科学科	24	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○			2	5・7 900	
				物理科学科	30	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○			2	5・7 900	
				知能情報システム学科	45	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○			2	5・7 900	
	機能物質化学科			62	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2		5・7 900		
	機械システム工学科			58	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2		5・7 900		
	電気電子工学科	60		○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 900				
	都市工学科	61		○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 900				
	農学部	応用生物科学科		25	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	2	5・7 600			
		生物環境科学科 生命機能科学科	30	○	○	○	○	○		150	100					50								1	1										600				
	後期	教育学部	学校教育課程 幼小連携教育コース		5	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	5・5 1000	地歴・公民・数・理から1	
			学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免許専攻	12	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	5・5 1000			
				○	200						200	200					200								1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	5・5 1000			
			学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免許専攻	5	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1		5・5 1000
				○	200						200	200					200								1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	5・5 1000			
			芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース	10	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	◇	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1		3・3 500
		芸術地域デザイン学科 地域デザインコース		15	○	○	○	○	○	1	◎	◇	◇	◇	◇	1	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	4・4 600		
				○	200						200	(100)					(100)								1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	4・4 600		
		○		200						200	(100)					100								1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	4・4 600			
		経済学部	経済学科	20	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	1	4・5 700	地歴・公民・理から1	
経営学科 経済法学科			20 25	○	○	○	○	○		200	200					(100)								1	1												700		
医学部		医学部	医学科	10	◎	◎				1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				◎	◎					2	5・7 630	約 10 倍		
			看護学科	5	◎	◎				1	◎	◎	◎	◎	◎	1	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○			2	5・6 590			
		理工学部	数理科学科	6	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 600				
			物理科学科	8	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 600				
			知能情報システム学科	10	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 600				
	機能物質化学科		16	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				○	○	○	○		2	5・7 600					
	機械システム工学科		17	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				◎	◎	◎	◎		2	5・7 600					
	電気電子工学科		22	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				◎	◎	◎	◎		2	5・7 600					
	都市工学科		15	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1				◎	◎	◎	◎		2	5・7 600					
	農学部		応用生物科学科	10	○	○	○	○	○	1	◎	◎	◎	◎	◎	2	○	○	○	○	○	○	○	1	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	2	5・7 550			
生物環境科学科 生命機能科学科		15 5	○	○	○	○	○		100	100					50								1	1										550					

日程	学科・課程等			個別試験																	配点比率	備考							
				外国語				国語		数学					理科			総合問題	小論文	実技			面接	調査書	その他	満点	教科数		
				コミュニケーション英Ⅰ	コミュニケーション英Ⅱ	コミュニケーション英Ⅲ	英語表現Ⅰ	英語表現Ⅱ	国語総合	国語表現	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	物理基礎・物理	化学基礎・化学											生物基礎・生物	地学基礎・地学
前期	幼小連携教育コース			○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△											400	2	9:4		
	小中連携教育コース	初等教育主免専攻	地歴・公民2科目型	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△										400	2	9:4		
			理科2科目型	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△										400	2	9:4		
		中等教育主免専攻	地歴・公民2科目型	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△										400	2	9:4		
			理科2科目型	○	○	○	○	○	△	△	△	△		△	△										400	2	9:4		
			3科目型																						500		5:5	実技試験は描写表現(27ページ)	
		芸術表現コース	4科目型																						400		6:4	実技試験は発想表現(27ページ)	
	地域デザインコース																			◎				400		7:4	総合問題の内容は26ページ		
	経済学科 経営学科 経済法学科			○	○	○	○	○																	100	1	7:1		
	医学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○							◎	◎	400	3	63:40	
	看護学科																				◎		◎	◎	260		65:26		
	数理科学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○				100		◎	◎	600	3	9:6	
	物理科学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○									600	3	9:6	
	知能情報システム学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○								600	3	9:6	
	機能物質化学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○								600	3	9:6	
	機械システム工学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○									600	3	9:6	
	電気電子工学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○								600	3	9:6	
	都市工学科			○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○									600	3	9:6	
	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科			○	○	○	○	○			○	○		○	○											400	2	6:4	
後期	学校教育課程 幼小連携教育コース			○	○	○	○	○												◎					400	1	10:4		
	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻			○	○	○	○	○												◎					400	1	10:4		
	学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免専攻			○	○	○	○	○												◎					400	1	10:4		
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース																				◎				300		5:3	実技は描写・発想表現から1(27ページ)	
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース			○	○	○	○	○															◎		300	1	6:3	その他は問題解決・提案力テスト(26ページ)	
	経済学科 経営学科 経済法学科																			◎					100		7:1		
	医学科																					◎	◎		280		63:28	出願後に自己推薦書を提出	
	看護学科																					◎	◎		280		59:28	出願後に自己推薦書を提出	
	数理科学科										○	○	○	○	○											400	1	6:4	
	物理科学科															◎										400	1	6:4	
	知能情報システム学科										△	△	△	△	△	△										400	1	6:4	
	機能物質化学科																◎									400	1	6:4	
	機械システム工学科										◎	◎	◎	◎	◎											400	1	6:4	
	電気電子工学科										△	△	△	△	△	△	△									400	1	6:4	物理基礎・物理、 化学基礎・化学は出願時に選択
	都市工学科															◎										400	1	6:4	
	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科										○	○		○	○											200	1	55:20	

【表の見方】

① ◎は必須教科の必須科目、○は必須教科の選択科目、△は複数教科受験可能で、高得点採用の科目。

② 配点に(―)を付している場合は選択教科。配点比率は大学入試センター試験と個別試験の配点比率を表示。

③ 大学入試センター試験では「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」は必ず2科目セットでの選択が必要。この場合の科目数は2つ合わせて「1科目」として扱う。

④ 大学入試センター試験の理科における受験パターンをA～Dで表示。Aは基礎2科目、Bは基礎2科目又は専門1科目、Cは基礎2科目及び専門1科目、Dは専門2科目。

⑤ 大学入試センター試験外国語の英語はリスニングの受験が必須です。

⑥ 面接は、評価が低い場合は不合格とすることがあります。

○平成30年度大学入試センター試験の科目選択及び得点の取扱い等について

【地歴・公民】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合の取扱いについては、「第1解答科目」の得点を採用します。

学部・学科等が指定した科目は、必ず「第1解答科目」で受験してください。

- (2) 学部・学科等が指定する科目を「第1解答科目」で受験せず、「第2解答科目」で受験した場合は、0点として取扱います。

なお、受験が認められていない同一名称を含む科目の組み合わせで2科目を選択した際に、「第1解答科目」を学部・学科等が指定していない科目を受験し、「第2解答科目」で受験した場合は、無資格として取扱い、検定料の一部を返還します。

*参考（取扱い例）

地歴・公民の指定科目	第1解答科目 の受験科目	第2解答科目 の受験科目	得点の取扱い
世B，日B，地理B， 倫・政経から1	世B	地理A	第1解答科目の「世B」を採用
	地理A	世B	地歴・公民の得点は0点
	世A	世B	無資格とします。

【理科】

- (1) 「基礎を付した科目」とは、「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」及び「地学基礎」の4出題科目のうちから2出題科目を選択することを表します。
- (2) 「基礎を付していない科目」とは、「物理」，「化学」，「生物」及び「地学」を表します。
- (3) 学部・学科等が「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」から2科目と指定する場合に「物理」と「物理基礎」など、同一名称を付した科目を選択することはできません。
- (4) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に「基礎を付していない科目」から2科目受験した場合は、「第1解答科目」の得点を採用します。また、「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合は、高得点を採用します。

【数学】

- (1) 学部・学科等が受験科目を1科目と指定している場合に2科目受験した場合は、高得点の科目を採用します。
- (2) 医学部，理工学部，農学部については、「簿記・会計」，「情報関係基礎」を選択できる者は，高等学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

【複数教科・科目間の選択にかかる得点の取扱いについて（指定科目数を超えて受験している場合）】

複数教科間の科目採用については、高得点順とします。ただし、地歴・公民及び理科（「基礎を付した科目」及び「基礎を付していない科目」を受験した場合を除く。）においては、「第1解答科目」を優先します。

【外国語】

外国語において英語を受験した者については、リスニングを受験してください。リスニング未受験の者については、失格とします。

(大学入試センターにおいて審査の上、リスニングの免除を許可された者を除きます。)

筆記試験200点満点、リスニング50点満点を以下のとおり換算し、利用します。

学 部	日 程	筆記試験	リスニング	合 計
教育学部	前 期 後 期	160点	40点	200点
芸術地域デザイン学部	前 期 後 期	160点	40点	200点
経済学部	前 期 後 期	160点	40点	200点
医学部	前 期 後 期	112点	28点	140点
	推 薦 II 佐賀県推薦	128点	32点	160点
理工学部	前 期	160点	40点	200点
	後 期	120点	30点	150点
	推 薦 II	200点	50点	250点
農学部	前 期 後 期	80点	20点	100点

※リスニングを免除された者については、各学部とも、筆記試験（200点満点）の得点を合計欄の点数に換算し、利用します。

○英語外部検定試験の一般入試での利用について

積極的に英語の技能を活用し、主体的に考えを表現することができる学生を求めるとともに、英語のコミュニケーション能力を適切に評価するため、英語外部検定試験の結果を一般入試（前期日程及び後期日程）に利用できます。

(1) 利用できる検定試験（4技能受験必須）

- ・実用英語技能検定（CSE2.0）
- ・TEAP（4技能）
- ・GTEC CBT
- ・TOEFL iBT

(2) 利用方法

- ・検定試験の成績を換算表に基づき、大学入試センター試験（英語）の得点に換算し、大学入試センター試験の成績とみなして合否判定に利用します。
- ・大学入試センター試験の得点が、検定試験の換算点より高い場合は、大学入試センター試験を採用します。

(3) 換算表

実用英語 技能検定 (CSE2.0)	TEAP (4技能)	GTEC CBT	TOEFL iBT		センター試験 得 点 率
2,150以上	270以上	1,100以上	61以上	⇒	90%
2,000-2,149	235-269	1,030-1,099	52-60	⇒	80%
1,900-1,999	220-234	950-1,029	45-51	⇒	70%

(4) 申請方法

- ・インターネット出願登録時に検定試験の種別及び受験（テスト）ID を登録してください。入力がない場合や間違った情報を登録した場合、登録した検定試験は利用できない場合があります。
- ・受験した検定試験の成績証明書等（写し可）を出願書類送付用封筒に同封してください。
- ・申請できる検定試験の成績は1件です。また、有効期限は、平成28年4月1日以降に受験した検定試験に限ります。
- ・成績証明書等が出願期間内に届かなかった場合は、登録した検定試験は利用できません。

(5) 大学入試センター試験の受験について

- ・英語外部試験の利用を申請した場合においても、大学入試センター試験の英語（リスニングを含む）を受験しなかった場合は失格となります。

○平成30年度個別学力検査等の出題範囲及び試験方法について

【数学】

数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Aは全範囲から出題します。数学Bは「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

【総合問題】

文章（英文を含む）や資料（図表，写真，絵，地図など）を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問います。

【問題解決・提案力テスト】

地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を，文章や図表，絵などにより，解答用紙に簡潔にまとめたものについて，企画力，発想力，表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価します。

筆記用具については募集要項に掲載します。

○芸術地域デザイン学部芸術表現コース実技検査の選択方法について

【前期日程】

出願時に「3科目型」を選択した受験者には実技検査（描写表現）,「4科目型」を選択した受験者には実技検査（発想表現）を課します。実技検査（描写表現）では, (1)～(3)のいずれかを出願時に選択します。出願後の変更はできません。

○実技検査（描写表現）

(1) 木炭による石膏デッサン (2) 鉛筆による石膏デッサン (3) 水彩による静物着彩

○実技検査（発想表現）

発想・企画プレゼンテーション

○持参道具については, 募集要項に掲載します。

【後期日程】

出願時に(1)～(4)のいずれかを選択します。出願後の変更はできません。

○実技検査（描写表現）

(1) 木炭による石膏デッサン (2) 鉛筆による石膏デッサン (3) 水彩による静物着彩

○実技検査（発想表現）

(4) 発想・企画プレゼンテーション

○持参道具については, 募集要項に掲載します。

平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔教育，芸術，経済〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科・コース等	方式	募集人員	セ試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	推薦Ⅰ	5	×	(1) 将来、特別支援学校や小・中学校等で特別支援教育の仕事に携わる教員になることを強く志望する者 (2) 高等学校の調査書における評定平均値が3.8以上の者	調査書、推薦書		基礎学力試験（外国語）、小論文、面接		12/1	12/11
	小中連携教育コース 初等教育主専攻	推薦Ⅰ [佐賀県枠]	5	×	(1) 佐賀県内の高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者 (2) 将来、佐賀県下の小学校教員として活躍を期待するに十分な意欲、資質、適性等を有する者 (3) 高等学校の調査書における評定平均値が4.3以上の者	調査書、推薦書、志望理由書	1次	佐賀県教育委員会による書類審査	11/1 ～11/8	—	11/17頃
							2次	基礎学力試験（外国語、数学）、小論文、面接			12/1
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	推薦Ⅰ	5	×	学業成績、人物ともに特に優れ、芸術表現や当該分野に関して興味関心がある者、又は優れた経験・知識・技術・実績及び熱意がある者	調査書、推薦書、ポートフォリオ		面接（口頭試問を含む）、実技検査	11/1 ～11/8	12/1	12/11
経済学部	経済学科	推薦Ⅰ [商業系]	10	×	(1) 全体の評定平均値が4.3以上の者で、人物、学力について優れる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、志望理由書、特色加点申請書（任意）		小論文、面接（口頭試問を含む）	11/1 ～11/8	12/1	12/11
	経営学科		20								
	経済学科	推薦Ⅰ [普通系]	10	×	(1) 社会科学にとりわけ関心があり、かつ、人物について優れ全体の評定平均値が4.0以上の者 ただし、次のうちいずれかの要件を満たす者 ①成績優秀な者（外国語については評定平均値4.3以上） ②社会事象についての分析や、社会的活動等において優れた実績があり、それを裏付ける資料のある者 ③個性的で積極性に富み、高等学校長が、大学生活においてその能力を充分に発揮できると評価し、推薦に価すると思われる者 (2) 平成29年度中に高等学校の卒業を認められた者を含む						
	経営学科		10								
	経済法学科		10								

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書・推薦書の評価基準 学業成績、修学状況、部活動、社会活動等を見ます。 (2) 小論文の評価基準 出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (3) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。 (4) 面接の評価基準 勉学意欲、特別支援教育への興味・関心等を見ます。 (5) 合否判定基準 書類（調査書及び推薦書）、小論文、基礎学力試験、面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ
(1) 調査書等の評価基準 学業成績が優秀かどうか、教職を目指す強い意志を持ち、教員になるための基礎的な資質、能力を兼ね備えているかを、調査書、推薦書、志望理由書等により評価します。 (2) 小論文の評価基準 資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (3) 面接の評価基準 志望動機、学習意欲、積極性、コミュニケーション能力について評価し、将来小学校教員になるための適性を備えているかを判断します。 (4) 基礎学力試験の評価基準 高等学校の教科書程度の内容が十分理解できているかを、基礎的な問題によって評価します。 (5) 合否判定基準 基礎学力試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書、志願者の志望理由書を総合して、合格者を決定します。 佐賀県教育委員会による第1次選考（書類審査）を行い、その選考結果は、平成29年11月17日（金）頃通知します。 第2次選考については、第1次選考合格者に対して小論文、面接及び基礎学力試験を行い、各成績評価と書類審査の評価を総合して合格者を決定します。	・外国語はコミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ ・数学は数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数Bで数Bは数列・ベクトル
(1) 調査書、推薦書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科、科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、推薦書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の採点・評価基準 芸術表現を通して地域社会を考え、発想力、コミュニケーション能力等を有しているかを採点・評価基準とします。加えて、当該分野に関する口頭試問によって基礎的知識や制作活動の経験を把握し、当該分野に関する意欲の高さを評価します。 (3) 実技検査の採点・評価基準 自らの手による表現力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有しているかを採点・評価基準とします。 静物着彩では、基礎的な造形力に加え水彩絵具による表現力なども総合的に評価します。粘土による造形表現では、基礎的な造形力と表現力などを総合的に評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）、面接及び実技検査の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・実技検査 静物着彩・粘土による造形表現から1 粘土による造形表現は、試験時に手びねり又はロクロ成形を選択 ・入学志願者が募集人員の約4倍を超えた場合は、書類（調査書、推薦書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書等の採点・評価基準 学習状況、クラブ活動等を見ます。 (2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） アドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。 (3) 小論文の採点・評価基準 資料を提示の上、それについての読解力、着眼力、思考力、文章表現力等を基準として評価します。 (4) 面接の採点・評価基準 高校生活の活動状況及び将来の学修意欲等について口頭試問します。 (5) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	・商業系（商業高等学校の全科を含む）・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度
	・普通科又はこれに準ずると本学部が認める科 ・出願要件の②については証明する資料を添付 ・「特色加点」とは志願者の主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度

平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔医〕

出願資格・出願要件（全学部）											
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す											
学部	学科	方式	募集人員	セ 試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	医学科	推薦Ⅱ 〔一般枠〕	20	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた医師あるいは医学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校の卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書	セ試得点、小論文、面接	11/1 ～11/8	12/2	2/7	
		推薦Ⅱ 〔佐賀県枠〕	23	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内の医療活動に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①佐賀県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 ②佐賀県外の高等学校を卒業又は卒業見込みの者のうち、佐賀県内の小学校、中学校のいずれかを卒業し、保護者が佐賀県内に平成29年10月1日現在で3年以上在住している者（出願手続時に住民票あるいは戸籍の附票で確認） (4) 大学卒業後は、佐賀県内の基幹型臨床研修病院において、初期臨床研修（2年）を受けることを確約できる者	調査書、推薦書、自己推薦書、志願理由書、確約書					
		推薦Ⅱ 〔長崎県枠〕	1	5-7	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、長崎県内の地域医療に貢献したいという強い意思を有する者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者又は平成28年4月以降に卒業を認められた者で、次のいずれかに該当する者 ①長崎県内の小学校又は中学校を卒業した者 ②長崎県内の高等学校を卒業又は卒業見込みの者 (4) 入学後は「長崎県医学修学資金」の貸与を受け、大学卒業後は長崎県が指定する長崎県内医療機関等で診療に従事することを確約できる者						
	看護学科	推薦Ⅰ	20	×	(1) 高等学校における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 (2) 将来、病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持つ優れた看護職者あるいは看護学研究者として自主的な研究を積極的に進める才能を持つと期待できる者 (3) 平成29年4月以降に高等学校卒業を認められた者を含む	調査書、推薦書、自己推薦書	小論文、面接	11/1 ～11/8	12/2	12/11	

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

※大学入試センター試験を利用する場合、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は失格となる。

学部	学科	方式	募集 人員	セ 試	出願要件	提出書類	段階	試験			
								試験方法	出願期間	試験日	合格発表
医学部	医学科	佐賀県推薦入学	2	5-7	(1) 佐賀県が責任をもって推薦できる者（佐賀県による第一次選考合格者） (2) 病める人の気持ちが理解できるような思いやりのある温かい心を持ち、将来、佐賀県内での医療活動に従事し、県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す者 (3) 高等学校を平成30年3月に卒業見込みの者若しくは平成27年4月以降に卒業を認められた者、又は、高等専門学校第3学年を平成30年3月修了見込みの者若しくは平成27年4月以降に修了した者で、いずれも高等学校等における調査書の全体の評定平均値が4.0以上である者（高等学校には、中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む） (4) 最終合格者は、必ず佐賀大学医学部に入学し、卒業後は佐賀県内で医療に貢献することを確約できる者	調査書、所信書、確約書	1次	佐賀県による面接	11/1～11/6	11/11 11/12	11/14
						佐賀県からの推薦書	2次	セ試得点、小論文、面接	11/17～11/22	12/2	2/7

※「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

※大学入試センター試験を利用する場合、必要な教科・科目のうち一つでも受験しなかった者は失格となる。

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価しま す。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績、小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格 者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が大学の基準を満たしていない場合、あるいは面接の評価 が低い場合は不合格とすることがあります。	・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 ・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等）による第1次選考を行う場合がある ・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】 ・推薦人数は各高校2人以内 ・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 ・保護者とは、子に対して親権を行う者、親権を行う者のないときは、未成年後見人をいう。（本学部における保護者の定義＜学校教育法から引用＞） ・入学志願者が募集人員の約5倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行う場合がある ・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】 ・合格者は県内医療活動に従事し、地域医療を担う人材を育成するための佐賀県医師修学資金の貸与を受けられる（5人以内） ・佐賀県医師修学資金については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 調査書等の採点・評価基準 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを高等学校3年間の行動記録である調査書及び高等学校長の推薦書により評価しま す。志願者本人による自己推薦書も同様に取り扱います。 (4) 合否判定基準 小論文、面接、高等学校長の推薦書、調査書等を総合して合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	・調査書の「4. 学習成績概評」欄に㊸と標示する場合は、「9. 備考」欄にその理由を必ず明記 ・入学志願者が募集人員の約10倍を上回り、試験を適切に行うことが困難であると予想される場合には、書類（調査書、推薦書等（学校長推薦書））による第1次選考を行う場合がある ・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】 ・長崎県医学修学資金については長崎県福祉保健部に問い合わせ

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる 良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決 しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる 上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優 れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。また、将来、 佐賀県内での医療活動に従事し県民の健康と福祉の増進に寄与する医師となることを目指す意 思の有無も評価の基準とします。 (3) 佐賀県からの推薦書等 単に学業成績優秀というのみでなく、規則的な生活習慣を保ち、学習意欲、積極性や協調性に富 んでいるかを、佐賀県からの推薦書及び添付書類を参考に評価します。 (4) 合否判定基準 佐賀県からの推薦書等、小論文、面接、大学入試センター試験の成績を総合的に判断して、合 格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	・佐賀県在住者だけでなく、日本国内の居住者も対象 ・佐賀県から佐賀大学への推薦人数は6人程度 ・第1次選考については佐賀県健康福祉部医務課に問い合わせ ・佐賀県が行う第一次選考を経て、佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第二次選考を受験する資格を得た者 ・大学入試センター試験の利用科目及び配点 国 必須【160】 世B、日B、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1【80】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情から1【160】 物 必須、化 必須【160】 英 必須【160】

平成30年度特別入試（推薦入試）出願資格・選抜方法〔理工，農〕

出願資格・出願要件（全学部）												
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 (2) 特別支援学校の高等部を平成30年3月卒業見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成30年3月修了見込みの者 (4) 高等学校長（※）が責任をもって推薦できる者で、合格した場合は確実に入学できる者 ※ 高等学校長とは上記(1)～(3)の学校長を示す												
学部	学科・コース等	方式	募集 人員	セ 試	出願要件	提出書類	段階	試験				
								試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日	
理 工 学 部	知能情報システム学科	推薦Ⅰ [情報系]	2	×	学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者	調査書、推薦書		基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）	11/1 ～11/8	12/1	12/11	
	機能物質化学科	推薦Ⅰ [工業系]	2									
	機械システム工学科		5									
	電気電子工学科		4									
	都市工学科		4									
	物理科学科	推薦Ⅱ [普通系]	2	5-7	(1) 学習成績、人物ともに優れ、科学技術に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 平成29年3月に高等学校を卒業した者を含む (3) 以下に指定している科目を履修している者 機能物質化学科……数学Ⅲ、化学 その他の学科……数学Ⅲ、物理		セ試得点	1/15 ～1/22	—	2/7		
	知能情報システム学科		3									
	機能物質化学科		10									
	機械システム工学科		10									
	電気電子工学科		4									
	都市工学科		10									
農 学 部	応用生物科学科	推薦Ⅰ [専門系]	3	×	(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者 (2) 学習成績概評が㊤として推薦できる者	調査書、推薦書、志望理由書		基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）	11/1 ～11/8	12/1	12/11	
	生物環境科学科		3									
	生命機能科学科		1									
	応用生物科学科	推薦Ⅰ [普通系]	7		(1) 学習成績、人物について優れ、自然科学に対する熱意と能力があると評価される者			小論文、面接(口頭試問を含む)				
	生物環境科学科		12									基礎学力・学習力テスト、小論文、面接（口頭試問を行う場合があります。範囲は受験する学科の専門に関する分野）
	生命機能科学科		4									

※出願要件の「高等学校」とは出願資格・出願要件（全学部）に記載した学校及び施設を示す。

※「セ試」とは大学入試センター試験を、5-7とは5教科7科目を示す。

評価基準	その他要件等
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や、情報及び理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマに対し、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、クラブ活動や理数関連の実績等学業以外の活動が志望動機となっている場合も評価します。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、推薦書等）、小論文及び面接の成績を総合して判定します。	・工業系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・機械系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・電気・電子・情報系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います ・土木・建築系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 調査書及び推薦書の評価基準 1) 調査書 高校での履修状況、修学状況（出席等）、生活態度等について総合的に評価します。 2) 推薦書 「推薦の理由」が理工学部の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）における「求める学生像」を踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 合否判定基準 大学入試センター試験の成績、調査書及び推薦書を総合して合格者を決定します。 なお、大学入試センター試験の成績が本学の定める基準を満たしていない場合は、不合格とすることがあります。	・大学入試センター試験の利用教科・科目名・配点等 国 必須 【100】 世B、日B、地理B、倫・政経 から1 【100】 数Ⅰ・数A 必須、数Ⅱ・数B、簿・会、情 から1 【300】 物、化、生、地学 から2※ 【250】 英、独、仏、中、韓 から1 【250】 ※物理科学科、機械システム工学科及び都市工学科の志願者は物理の選択が必須
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について、評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・調査書の「9. 備考」欄に学習成績概評が㊦の理由を明記 ・専門系の科、総合学科の専門科目単位取得者（20単位以上） ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。ただし、生命機能科学科は1人 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 自己の目標や志望学科に対する意欲等について、評価します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。 ・基礎学力・学習力テスト タブレット端末を利用して基礎的な学力を測るテストを行います
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、考察力、論理的思考力、表現力及び記述力を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標や志望学科に対する意欲等について、口頭試問します。 (3) 調査書の採点・評価基準 学業成績、修学状況、部活動及び社会活動を見ます。 (4) 合否判定基準 書類選考（調査書、志望理由書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	・総合学科は専門科目単位20単位未満の者 ・推薦人数は各高校の各課程から各学科に対し2人以内。

平成30年度特別入試（AO 入試）出願資格・選抜方法〔教育、芸術〕

学部	学科・コース等	募集人員	セ試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
						試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
教育学部	学校教育課程 小中連携教育コース 初等教育主免専攻	10	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、体育、家庭のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、初等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、小学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者					
	学校教育課程 小中連携教育コース 中等教育主免専攻	8	×	(1) 次のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成28年4月以降に卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成28年4月以降に修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 英語、理数、音楽、保健体育、家庭、技術のいずれかの分野に関して特に意欲・関心が高く、その分野に関する知識と技能が特に優れている者 (3) 入学後、中等教育を中心に学修を行う意欲を有し、将来、中学校等の教員になることを強く志望する者 (4) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、活動実績報告書	小論文、面接（口頭試問を含む）、志望分野に関する適性検査	8/17 ～8/24	9/26 音楽分野は 9/26・27	10/11
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 美術・工芸分野	5	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成29年4月以降にこれに該当する者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 芸術表現コースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、ポートフォリオ	志望分野に関する適性検査、面接			
	芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	5	×				8/17 ～8/24	9/26	10/11
	芸術地域デザイン学科 地域デザインコース	15	×	(1) 次の各号のいずれかに該当する者 ①高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成30年3月卒業見込みの者 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成30年3月修了見込みの者 ③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者及び平成30年3月31日までにこれに該当する見込みの者 (2) 地域デザインコースでの勉学を強く希望する者 (3) 合格した場合は、確実に入学できる者	調査書、志願理由書、特色加点点申請書（任意）	小論文、適性検査、面接			

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来小学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題） 理数分野：理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げ） 家庭分野：献立作成と調理 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、出願資格および出願要件の(2)(3)および本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 活動実績報告書の評価基準 志望分野に関するこれまでの活動実績（研究活動等の実績、外部の英語検定試験の成績、留学経験、大会・コンクール等の実績）を評価します。 (3) 小論文の評価基準 学校教育に関する資料を提示してそれについて論述式の試験を行うことにより、文章理解力、資料の内容に関する知識、論理的な思考力、文章構成力、表現力を評価します。 (4) 面接の評価基準 志望動機、専門領域に関する知識や理解、修学意欲、積極性、コミュニケーション能力等を評価し、将来中学校等の教員になるための適性を備えているかを判断します。 (5) 適性検査の評価基準 志望する分野の適性及び基礎能力を評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書）、小論文、面接及び適性検査（活動実績報告書の評価を含む）の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・適性検査内容 英語分野：英語の筆記試験（総合問題、英作文、要約問題） 理数分野：理科分野または数学分野に関する研究内容をまとめた資料（持参）をもとに発表及び質疑応答 音楽分野：専攻楽器（または声楽）の個別レッスン2回、ソルフェージュの個別レッスン1回 保健体育分野：基礎運動能力（背筋力、反復横とび、ジャンプ力、ソフトボール投げから2）及び学校体育教材（バスケットボール、サッカー、バレーボールから2）における運動技能 家庭分野：献立作成と調理 技術分野：与えられたテーマについてレゴブロックを用いて作品をつくり、プレゼンテーション及び質疑応答 ・入学志願者が多く、適性検査を適切に行うことが困難な場合は、書類（調査書、志願理由書及び活動実績報告書）により、第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書、志願理由書、ポートフォリオ（※）の採点・評価基準 調査書では「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。また、志願理由書とポートフォリオでは、活動実績と芸術表現に対する意欲を本コースのアドミッション・ポリシーに照らし評価します。 ※ポートフォリオは活動実績や作品などをA4用紙で5ページ以内のファイルにまとめて提出してください。 (2) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性、発想力等を総合的に評価します。 (3) 適性検査の採点・評価基準 教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や分析力、行動力及び考察力を重視した多面的・総合的な採点、評価を行います。 (4) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・適性検査内容 模擬授業を受講後に作品制作を行います。 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及びポートフォリオ）による第1次選考を行う場合がある
(1) 調査書・志願理由書の評価基準 調査書では、「各教科・科目等の学習の記録」「評定平均値」「出席状況」「特別活動の記録」「指導上参考となる諸事項」等について、出願要件および本コースの「求める学生像」から著しく逸脱していないかを確認します。 志願理由書では、本コースのアドミッション・ポリシーを踏まえた内容になっているかを確認します。 (2) 特色加点の採点・評価基準（申請者のみ） 本コースのアドミッション・ポリシーに応じて、これまでの活動・実績を評価します。 (3) 面接の評価基準 熱意、修学意欲、積極性、主体性等を総合的に評価します。 (4) 小論文の採点基準 読解力、論理的思考力、分析力、考察力、企画力、発想力、表現力等を総合的に判断します。 (5) 適性検査の採点・評価基準 コミュニケーション能力、論理性、表現力等を総合的に評価します。 (6) 合否判定基準 書類（調査書、志願理由書、特色加点申請書〈申請者のみ〉）、小論文、適性検査及び面接の各成績評価を総合して、合格者を決定します。	・適性検査内容 与えられたテーマについてのプレゼンテーション資料の作成、個別発表及び質疑応答 ・「特色加点」とは志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点する制度 ・入学志願者が募集人員の約5倍を超えた場合は、書類（調査書、志願理由書及び特色加点申請書（申請者のみ））による第1次選考を行う場合がある

平成30年度特別入試（帰国子女，社会人）出願資格・選抜方法〔医，理工，農〕

学部	学科	方式	募集人員	七試	出願資格および出願要件	提出書類	試験			
							試験方法	出願期間	試験日	合格者発表日
医学部	医学科	帰国子女	若干人	×	日本の国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、保護者とともに2年以上継続して外国に在留し、次のいずれかに該当する者とします。 ただし、平成28年3月31日以前に帰国（一時的な短期の帰国を除く）した者及び保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの期間が2年以上経過した者は、出願を認めません。 (1) 学校教育における12年の課程を平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、原則として、外国において最終学年を含め、2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCE-A レベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者	証明書類	学力検査（数学・理科・外国語）、面接	2/25・26	3/8	
	理工学部		全学科		若干人		日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者であって、外国の学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCE-A レベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者	小論文、面接（口頭試問を含む）	12/1	12/11
農学部	全学科		若干人		(1) 学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を外国又は日本において、平成28年4月1日から平成30年3月31日までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者で、卒業（修了）時点から起算して過去4年間の内、外国において2年以上継続して正規の教育制度に基づく学校教育を受けている者 ただし、外国に設置された学校等であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学して教育を受けた期間は、「2年以上」という期間には算入しません。 (2) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレアの資格証書を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (3) ドイツ連邦共和国の各州において、大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (4) フランス共和国において、大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年又は平成29年に授与された者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (5) 英国において大学入学資格として認められている GCE-A レベル資格を取得した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者 (6) 国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から認定を受けた外国に所在する教育施設において、12年の課程を修了した者で、平成30年3月31日までに18歳に達する者					
医学部	看護学科	社会人	若干人	×	平成30年4月1日現在、年齢が満21歳以上であり、社会人として3年以上の経験を有し、看護学を修め、卒業後看護の分野で就業する意思のある者で、次のいずれかに該当する者とします。 (1) 高等学校若しくは中等教育学校（以下「高等学校」と言う）を卒業した者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者 (3) 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者 注）社会人の期間には、学校等（予備校、大学、専修学校高等課程・専門課程）の在学期間は含まない	調査書等、成績証明書、志願理由書	小論文、面接	11/1～11/8	12/2	12/11

※「セ試」とは大学入試センター試験を示す。

評価基準	その他要件等
(1) 学力検査の教科名・科目名等 数学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B（注） 理科 物基・物、化基・化 外国語 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ （注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。 (2) 面接の採点・評価基準 医学部志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通して評価し、将来優れた医師になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 (3) 合否判定基準 学力検査、面接、提出書類を総合して最終的な合格者を決定します。 なお、面接の評価が低い場合は不合格とすることがあります。	
(1) 小論文の採点・評価基準 出題されたテーマについて、解釈力、論理的思考力、表現力及び記述力等を見ます。 (2) 面接の採点・評価基準 必要な基礎知識、自己の目標、志望学科に対する意欲を問います。 (3) 合否判定基準 書類（成績証明書等）、小論文及び面接等の結果を資料として判定の上、合格者を決定します。	
(1) 小論文の採点・評価基準 資料を提示のうえ、論述式の試験を行うことにより、病める人の身になって医療を実践できる良き医療人となるにふさわしい人間性及び種々の問題を科学的・論理的に思考し、それを解決しうる能力を評価します。 (2) 面接の採点・評価基準 これまでの社会人としての経験を生かした、看護学科志望の動機、学習意欲、積極性、生命や医療に対する倫理観、チーム医療の一員となる上で不可欠の協調性やコミュニケーション能力について、対話・口述を通じて評価し、将来優れた看護職者になるために十分な適性を備えているかどうかを総合的に判断します。 なお、志願理由書及び調査書は面接にあたって参考にします。 (3) 合否判定基準 小論文及び面接の結果を総合して、合格者を決定します。 小論文及び面接の配点 小論文200点、面接60点（総得点260点）	

■推薦入試Ⅰ・推薦入試Ⅱ・医学部医学科佐賀県推薦入学の配点

学区 学部、学科・課程等名			書類審査 (調査書、 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色 加点	
教育学部	学校教育課程	幼小連携教育コース 特別支援教育専攻	100	100	100		100		400		
		小中連携教育コース 初等教育主免専攻 [佐賀県枠]	50	100	150		200		500		
芸術地域デザイン学部		芸術地域デザイン学科 芸術表現コース 有田セラミック分野	300		300	400			1000		
経済学部	経済学科	商業系の科・ 情報系の科・ 総合学科推薦	2段階評価 (合、否)	100	2段階評価 (合、否)				2段階評価 (合、否) (注1)	40	
	経営学科									20	
	全学科	普通科又はこれに準ずると 本学部が認める科推薦									
医学部	医学科(推薦入試Ⅱ)		280	120	120			720	1240		
	医学科(佐賀県推薦入学)		260	120	140			720	1240		
	看護学科		150	200	150				500		
理工学部 (推薦入試Ⅰ)	知能情報システム学科		2段階評価	3段階評価 (A, B, C)	3段階評価 (A, B, C)		3段階評価 (A, B, C) (注2)		総合評価 (良, 可, 不可)		
	機能物質化学科										
	機械システム工学科										
	電気電子工学科										
	都市工学科										
理工学部 (推薦入試Ⅱ)	物理科学科		2段階評価 (合、否)					1000	総合評価 (合、否)		
	知能情報システム学科										
	機能物質化学科										
	機械システム工学科										
	電気電子工学科										
	都市工学科										
農学部	応用生物科学科	専門系	100	200	100		100 (注2)	500			
	生物環境科学科						50 (注2)				
	生命機能科学科				150						
	応用生物科学科	普通系			200						
	生物環境科学科				100		100 (注2)				
	生命機能科学科				200						

(注1) 特色加点の得点を加味して評価します。

(注2) 基礎学力・学習力テスト

■AO入試の配点

学部、学科・課程等名				区分	書類審査 (調査書、志願理由書等)	小論文	面接	適性検査	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)	特色加点
教育学部	学校教育課程	小中連携教育コース	初等教育主専攻		100	100	150 (注1)	200 (注2)		550	
			中等教育主専攻								
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	美術・工芸分野		200		200 (注3)	400		800	
			有田セラミック分野								
		地域デザインコース			2段階評価 合、否	300	200	500 (注4)		1000	100

(注1) 面接は口頭試問を含みます。

(注2) 活動実績報告書の評価を含みます。

(注3) 面接は適性検査に関する質疑応答を含みます。

(注4) プレゼンテーション資料作成の評価を300点、プレゼンテーション及び質疑応答の評価を200点とします。

■特色加点制度について

「特色加点」とは、志願者の積極的なアピールと高等学校入学以降の主体的な活動を喚起することを目的とした佐賀大学の新しい制度です。書類審査、小論文などの合計点（以下、「当初配点」という。）とは別に、志願者のこれまでの主体的な活動をアドミッション・ポリシーに応じて加点します。実績・活動の規模や志望分野との関係性、取り組み状況及び根拠資料の内容等を評価観点とします。志願者の申請を原則とし、申請がなければ当初配点のみで合否判定を行います。これまでに志願者が取り組んできた様々な実績や活動等が申請対象となります。

参考

特色加点のイメージ（芸術地域デザイン学部 AO 入試の例）

評価方法	当初配点	+  最大100点まで加点
小論文	300	
適性検査	500	
面接	200	
合計点	1000	

【芸術地域デザイン学部のこれまでの実績や活動の例】

- 地域創生などに関わる主体的な活動
- 課外活動（部活動や生徒会活動など）における実績や取り組み
- 研究活動（高大連携活動〈SSH、SGH等を含む〉、総合的学習等での活動実績）
- 資格・検定試験など外部試験等の実績
- 海外留学経験
- その他主体的な活動

VI 私費外国人留学生入試

本学では、私費外国人留学生のために特別の学力検査等を実施します。

1 出願資格

日本の国籍を有しない者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」（平成29年6月又は平成29年11月実施のいずれか、医学部は平成29年11月実施のみ）を受験し、TOEFLを受験済みの者（経済学部を除く。）で、次に掲げる入学資格を有する者

- (1) 日本国外において、学校教育による12年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
- (2) 上記(1)に準ずる者で、文部科学大臣の指定する者

2 募集人員

各学部（教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、医学部(医学科)、理工学部、農学部）とも若干人

3 入学者選抜方法

- (1) 教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部

入学者の選抜は、次頁のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績（経済学部を除く）並びに本学が行う学力検査・面接等の成績を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

- (2) 医学部

入学者の選抜は、次表のとおり独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績及びTOEFLの成績並びに本学が行う学力検査・面接を総合的に判断し最終的な合格者を決定します。

※学力検査の教科・科目名等

数 学 数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B（注）

理 科 物基・物、化基・化

外国語 コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ

（注）数学は、数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数Aは全範囲から出題します。数Bは「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

事 項		教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
				芸術表現コース	地域デザインコース				
日 本 留 学 試 験	利用する回の指定	6 月, 11 月 のいずれか		6 月, 11 月 のいずれか		6 月, 11 月 のいずれか	11 月	6 月, 11 月 のいずれか	6 月, 11 月 のいずれか
	出 題 言 語 の 指 定	日本語		日本語		日本語	日本語	日本語又 は英語	日本語
	文 系 と 理 系 の 別	文系	理系	文系	文系	理系	理系	理系	
	科	日 本 語	○	○	○	○	○	○	○
		理 科		○			○	○	○
		数学(コース1)	△	△	△	○			
		数学(コース2)	△	△	△		○	○	○
		総 合 科 目	○		○	○			
	目	理科の選択科目							
			「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択			「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択	「物理」, 「化学」, 「生物」から 2 科目選択	
TOEFL		○		○			○	○	○
学力検査等		面接, 日本語 (作文)		面接, 実技検査	面接, 日本語(作文)	面接, 日本語	面接, 学力検査	面接	面接
特記事項, 備考		面接を通じて, 教育学部の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。		鉛筆による デッサン (実技道具は大学で準備します。)		日本語は, 読解及び作文とします。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。	面接を通じて, 志望学科の学業に対する熱意と適性があるかどうかを判断します。

(注1) ○印は、必ず受験しておくことを示します。

(注2) △印は、数学のコース1又はコース2から1つを受験しておくことを示します。

(注3) 各学部第1志望のみ。

日本留学試験、TOEFL、学力検査等の配点等

事 項		教育学部		芸術地域 デザイン学部		経済学部	医学部	理工学部	農学部
				芸術表現コース	地域デザインコース				
日 本 留 学 試 験	文系と理系の別	文系	理系	文系		文系	理系	理系	理系
	日 本 語	450	450	450		325	450	450	450
	理 科	△	200	△		△	200	200	200
	数 学	200	200	200		100	200	200	200
	総 合 科 目	200	△	200		100	△	△	△
TOEFL		300		300		△	300	300	300
面 接		400	400	500	400	合、否	60	A, B, C	850
日 本 語		500	500	△	500	300	△	△	△
学 力 検 査		△		△		△	240	△	△
実 技 検 査		△		400	△	△	△	△	△
総 合 評 価 等		2050		2050		合、否	合、否	良、可、不可	合、否

4 入試日程

学 部	出願期間	試 験 日	合格者発表日
教育学部、芸術地域デザイン学部、 経済学部、理工学部、農学部	平成30年1月18日(木) } 平成30年1月23日(火)	平成30年3月1日(木) 平成30年2月25日(日) } 平成30年2月26日(月)	平成30年3月8日(木)
医学部			

VII 障がい等を有する志願者との事前相談について

障がい等を有する志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前に下記の内容を記載した申請書（様式は任意）を入試課に送付し相談してください。

なお、本学では、学生支援室を設置して、障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っています。

* 申請書の内容

志願学部・学科（コース・専攻）

障がいの種類・程度

受験上の配慮を希望する事項

修学上の配慮を希望する事項

出身学校等でとられていた配慮

日常生活の状況

連絡先（氏名、電話番号、住所、出身高校）

相談の時期

AO 入試志願者	平成29年 7 月28日(金)まで
推薦入試志願者	平成29年10月 6 日(金)まで
帰国子女特別入試志願者	
社会人特別入試志願者	
佐賀県推薦入学特別入試志願者	
私費外国人留学生入試志願者	平成29年12月 1 日(金)まで
一般入試志願者	平成30年 1 月15日(月)まで

なお、相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、配慮を希望される措置が講じられない場合がありますので、可能な限り早めに相談してください。

また、期限後に本学を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がい等を有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

佐賀大学 学務部 入試課

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地

TEL 0952-28-8178

ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp/>

e - m a i l contact@mail.admin.saga-u.ac.jp